

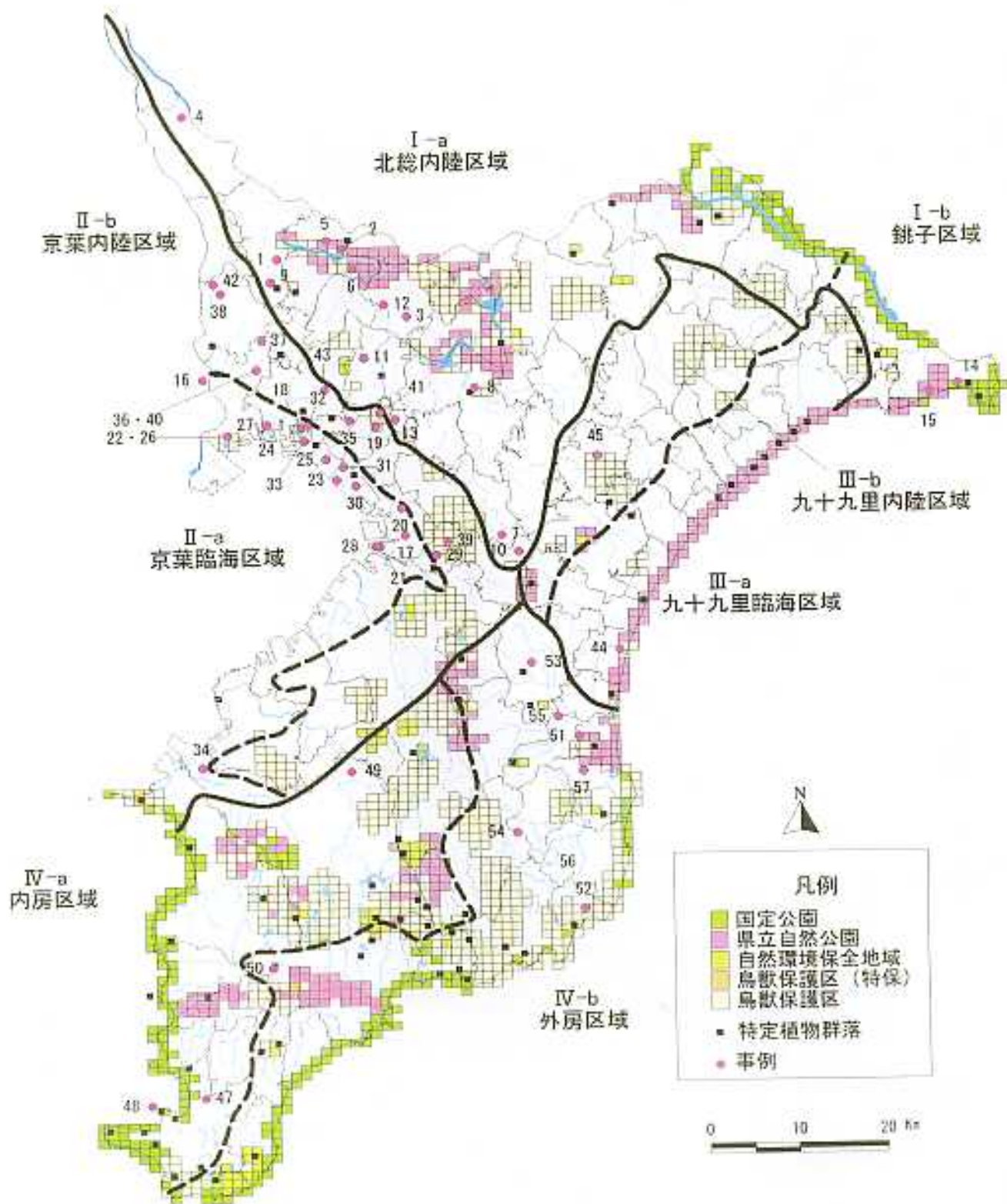


千葉県ビオトープ

— 事例集 —



千葉県 事例一覧



千葉県 事例一覧

NO	地区区分	主体	立地タイプ	市町村	事例
1	I-a	行政	農耕地	柏市	名戸ヶ浜水ビオトープ整備(整備中)
2	I-a	行政	農耕地	我孫子市	谷津ミュージアム構想(策定中)
3	I-a	行政	農耕地	印西市	栗山保全・活用事業(策定中)
4	I-a	行政	河川	野田市	かんがい排水事業(一般型、旧宮)実業北部地区
5	I-a	行政	湖沼	我孫子市	旗原 部の河川再生対策事業・ 手賀沼ビオトープ整備事業
6	I-a	行政	湖沼	沼南町	ギンヤンマ・カワセミ保全整備事業
7	I-a	行政	公園	千葉市	泉自然公園
8	I-a	行政	公園	佐倉市	佐倉ビオトープ創出事業
9	I-a	行政	公園	柏市	船尾城址総合公園整備工事(策定中)
10	I-a	民間	農耕地	千葉市	ちば・谷津田フォーラム
11	I-a	民間	農耕地	八千代市	「はたらの葉づくり」実行委員会
12	I-a	学校	学校	印西市	印西市立小倉台小学校
13	I-a	学校	学校	千葉市	千葉市立積戸小学校
14	I-b	民間	海岸	船子市	船子自然保護協会
15	I-b	民間	海岸	船子市	船子・自然を楽しむ会
16	II-a	行政	河川	市川市	特定構造物改良事業(行徳可動堰)
17	II-a	行政	河川	千葉市	二級河川生実川都市基盤河川改修事業
18	II-a	行政	干潟	習志野市	習志野(干潟)地区域環境地整備事業・谷津干潟公園
19	II-a	行政	公園	千葉市	花巻公園浸食水系ゾーン整備
20	II-a	行政	その他(博物館)	千葉市	県立都市公園整備事業・ 千葉県立中央博物館生体園整備事業
21	II-a	行政	その他(埋立地)	千葉市	コアジサシ繁殖地整備事業(整備中)
22	II-a	行政	その他(埋立地)	市川市	行徳内陸性湿地整備事業・ 旗原行徳内陸性湿地再整備事業
23	II-a	行政	その他(埋立地)	千葉市	花見川利木池環境内「トンボ池」
24	II-a	民間	海岸	市川市	三香野環境市民センター
25	II-a	民間	公園	千葉市	暮橋ベイクウンにエコパークをつくる会
26	II-a	民間	その他(埋立地)	市川市	行徳野鳥観察者友の会
27	II-a	民間	その他(埋立地)	千葉市	柳クボク船橋工場
28	II-a	民間	その他(埋立地)	千葉市	東京電力火力発電所
29	II-a	学校	学校	千葉市	千葉市立扇田小学校
30	II-a	学校	学校	千葉市	千葉市立幸町第二小学校
31	II-a	学校	学校	千葉市	千葉市立松毛第二小学校
32	II-a	学校	学校	習志野市	習志野市立谷津南小学校
33	II-a	学校	学校	習志野市	習志野市立秋津小学校
34	II-a	学校	学校	君津市	君津市立大和田小学校
35	II-b	行政	農耕地	習志野市	美新自然保護地区ビオトープ構築事業(策定中)
36	II-b	行政	湖沼	市川市	大船川第一調整池整備事業(整備中)
37	II-b	行政	農耕地	市川市	大船自然観察園
38	II-b	民間	埋耕地	松戸市	閑さんの森を育む会
39	II-b	民間	農耕地	千葉市	プロジェクト「谷津田祭り隊」
40	II-b	民間	その他(調整池)	市川市	市川緑の市民フォーラム
41	II-b	学校	学校	千葉市	千葉市立花見川第四小学校(敷地外のビオトープ作り)
42	II-b	学校	学校	松戸市	県立小金高校
43	II-b	学校	学校	船橋市	県立船橋芝山高校
44	II-a	民間	海岸	白子町	九十九里の自然を守る会
45	II-b	民間	埋耕地	山武町	山武に雑木林を作る会
46	II-b	民間	農耕地	八日市場市	千葉県野生動物を考える会 (旧旗原から活動フィールドは多立町)
47	IV-a	行政	河川	館山市	二級河川平久栗川水系滝川広域河川改修事業
48	IV-a	民間	海岸	館山市	沖ノ島サンゴを守る会
49	IV-a	学校	学校	市原市	市原市立牛久小学校
50	IV-b	行政	農耕地	鴨川市	鴨川市リフレッシュビレッジ事業
51	IV-b	行政	農耕地	~五河・妙高町	農村振興総合整備事業(地域環境整備)
52	IV-b	行政	農耕地	沼南町	ミヤコタナゴ生息地環境整備委託事業
53	IV-b	行政	河川	茂原市	緊急地方道路整備事業
54	IV-b	行政	その他(自然とのふれあい施設)	夷隅市・大原町・新宮	いずみ環境と文化のさと
55	IV-b	民間	農耕地	睦沢町	かざさ緑の会
56	IV-b	民間	海岸	夷隅町	夷隅市市自然を守る会
57	IV-b	学校	学校	網町	網町立吉沢小学校

谷津田の保全活動事例 活動団体名：ちば・谷津田フォーラム 企業名： 活動主体：ちば・谷津田フォーラム						主催主体	行政	民間	学校		
								○			
区域	I-a	I-b	II-a	II-b	III-a	III-b	IV-a	IV-b			
	○										
ビオトープの 整備・管理タイプ	保持型					復元型					
	○										
立地タイプ	樹林地	農耕地	河川	湖沼	湿地	海岸	干潟	公園	道路	学校	その他
		○									
概要	千葉県内全域の谷津田の保全に関して、農家・市民・行政・研究者などの間の情報交換と、保全に対して緊急かつ具体的行動を展開することを目的としている。主な活動は、谷津田保全に関心のある個人やグループの裾り起こしとそのリスト作り、谷津田の現状調べ、情報誌「ちば・谷津田フォーラム会報」の発刊、ちば・谷津田マップの作成、危機に瀕している伝統的谷津田の保全対策（具体的な農家支援活動など）、学習会、情報交換会などである。										
ビオトープの所在地	千葉県内の谷津田周辺										

【活動団体について】

●設立の経緯と目的

1999年10月千葉県環境情報センターで活動を行っている人々が中心となり、千葉県及びその周辺地域の谷津田の自然環境に関わる調査研究と、その保全のための具体的行動、農家・市民・行政・研究者間の情報交換などを展開することを目的として設立された。

●活動内容

会員は約270名程おり、会の運営は会費制ではなく、「寄付」やセブンイレブンみどりの基金などの助成でまかなわれている。活動の内容は下記の通りである。

- ・谷津田保全に関心のある個人やグループのネットワークづくり
- ・谷津田の現状調べ（ちば・谷津田100選登録）
- ・情報誌「ちば・谷津田フォーラム会報」の発刊（年3、4回）
- ・ちば・谷津田マップの作成
- ・谷津田の保全対策（具体的な農家支援活動など）
- ・学習会、情報交換会

【ビオトープのありか（活動対象地）】

房総半島の台地や丘陵地には、細く長い谷が入り込む地形が多くみられる。これは谷津地形と呼ばれ、谷底地は昔から水田すなわち谷津田として利用されてきた。この谷津田は周辺の雑木林や灌地、さらに伝統的農法により野生生物が多様で豊かな自然環境が今も残されている。

本会の活動地は主に千葉県内の谷津田や、旧来から残る農村環境の保全及び復元を目指して活動している地を対象としており、活動地が広範囲におたる中で今回は千葉県緑区の谷津田での活動を取り上げる。谷津田周辺の水路はU字橋などを使用しない昔からの谷津田環境が残されており、動植物にとっても優れた環境が維持されている。しかし周辺では区画整理方式による宅地開発の計画があり、田んぼのある低い土地も調整池用地として開発会社による買収が行われている。本会では所有権移転が済んでいるものの、開発会社から借り受けた6枚の田んぼで稲作やトンボ・メダカ池などを管理している。

【守り方・つくり方】

●目標とした生物・生態系

千葉県の谷津田は米作りの場として人々の暮らしに深く係わりながらも、その伝統的農法に培われ、多くの野

生動植物をはじめとする極めて豊かな水や緑の自然環境を育んできた千葉県民の原風景である。本会ではこの貴重な自然と豊かな文化を有する伝統的谷津田の自然環境及びその生態系保全を目標としている。

●活動状況

谷津田は近年、住宅や開発やゴミ処理場として使用され、急速に消失しており、残された所についても土地改良による乾田化や水路のコンクリート化がかつての野生生物の生息・生育環境を破壊している。さらに農家及び農政に関わる様々な社会問題により休耕地化が進み、自然の多様性を減少させている。そのような現状を踏まえ、最近では伝統的谷津田をはじめとする昔ながらの農村自然の重要性が注目されており、行政レベルでもその保全策について検討を始めている。

本会は田んぼを借りて活動しているが、活動だけではなく開発業者や区画整理準備組合などに対し、環境保全の提言や造成方法などについて継続した協議を行っている。そうした協議の結果、造成予定の調整池整備ではコンクリートなどを使用せず、現在の谷津田を極力残す他、将来的に宅地が整備された際にはこの谷津田一体の豊かな自然環境に付加価値を付けて販売する方針に変更するということが販売業者と約束された。今後の協議においても地域住民巻き込み、地域全体での共通理解を深めていきたいと考えている。

【管理】

現段階では谷津田における維持・管理作業は行っていない。しかし谷津田及びその周辺の自然環境を守り復元するには、昔ながらの土地利用と農法が基本である。例えば、土に覆われた水路を維持するためには定期的な「泥上げ」の作業が必要になってくるが、それらの作業は現状、付近の農家だけが行うのは困難となっている。また開発業者も、宅地が造成された後の谷津田の維持・管理を本会などの市民団体と協力して行いたいとの意向を持っており、今後、積極的にそれらの維持・管理作業を行っていききたいと考えている。また、斜園林の手入れについても現在は行っていないが、今後は周辺の地権者とも協議しながら行っていききたいと考えている。

【活用】

自然豊かな伝統的谷津田は、貴重な野生生物の生育・生息地として重要であるばかりか、人々の自然体験・学習の場としても貴重である。本会では2001年から千葉市緑区の6枚の田んぼを「谷津田プレーランド」として「米づくりゾーン」「トンボ・メダカ池」「どろんこゾーン」「イベントゾーン」に分け、いかに楽しく谷津田の保全を行うかをテーマに水田耕作、田植え祭り、収穫祭、レンゲ祭り、野草を食べる会、田んぼの生物の観察会などの催しを行っている。これらの催しは30～30名の参加者があり、ちば環境情報センターのニュースレターやミニコミ誌に告知され、会員以外でも参加する人々が増えており、地元の農家からも農業指導や駐車場の提供や余った苗の提供などの協力を得ている。また各地の谷津田での自然観察会や動植物に詳しい会員による自然環境の調査、谷津田保全のネットワークづくりとして県内の谷津田保全の活動をしている団体から情報を集め、現在、「自然豊かな伝統的谷津田マップ」を作製中である。

【その他】

●問題点・課題

谷津田は都市開発や土地改良、米作の放棄などによって急速に失われてきており、これをくい止めるとともに、伝統的な農法を続けるための施策が急務である。また、その継続には農家の力だけでなく、行政の資金や市民の保全活動などの支援が必要である。そのような支援体制を構築していくことが重要であるが、市民活動においても活動にあたっての資金面での限度があり、本会でも運営資金の方策と活動の社会的浸透が課題となっている。

